

ザ・リサイクルジュニア

第2号
令和4年
4月発行

発行／調布市環境部ごみ対策課 〒182-0031 調布市野水 2-1-1 クリーンセンター
TEL：042-306-8781 FAX：042-368-9921 E-mail：gomitai@w2.city.chofu.tokyo.jp

エス・ディー・ジーズ SDGs

じぞくかのう かいはつもくひょう
(持続可能な開発目標)

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

これから先、未来の人たちも含めた世界中すべての人が幸せに暮らしていくために、「豊かな環境」と「資源」を守り、「平和で住みやすい社会生活」を送ることができるようにすることが大切です。そのためには、今、みんなで考えて行動しなければなりません。その世界共通の課題について、**2030年までに解決するための17つの目標を「SDGs」と呼んでいます。**この目標（ゴール）は、一つ一つは違っていますが、実は互に関わりあい、つながっています。



「SDGs」と「ごみ問題」

SDGs は世界中の国や地域で取り組むとても大きな目標ですが、実は身近なごみ問題にも関係があります。

ごみは人が生活すると必ず発生します。

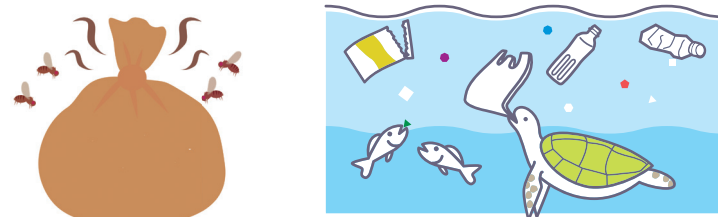
みなさんの身近だと・・・

- ご飯を作ると生ごみが出る
- ジュースを飲むとペットボトルが出る
- ティッシュで鼻をかむと紙のごみが出る



これらのごみがポイ捨てされたり、正しく処理されないと・・・

- 町中が臭くなり、ネズミや虫が大量発生
- たくさんの海の生き物がプラスチックを食べて死んでしまう
- 病気が広がってしまう
- 資源がなくなってしまう



ごみを正しく処理しなければ、環境を壊してしまうし、人の健康に害を与えてしまう。反対に、きちんと処理をしてリサイクルを進めていけば、天然資源を守り、住みやすい社会を作ることになる。ごみの分別や正しい出し方を守ることは、SDGs の取組につながっているんだ。

特に、ごみと関係の深い5つの目標を紹介します！



きちんと分別し、ルールを守ってごみを出そう

みなさんの家で出たごみは、決まった日に家の前に出すと、収集車で集められて、それぞれの処理施設に運ばれます。「当たり前」のことかもしれませんが、まちをきれいに、安心して暮らしていくためにはとても大切な仕組みです。

ごみが安全に収集・処理されるように、また、限られた資源がリサイクルされるように**きちんと分別し、ルールを守ってごみを出しましょう。**



11 住み続けられるまちづくりを



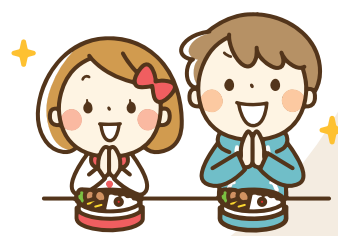
残さずしっかり食べよう

地球上の食べ物には限りがあります。その一方で調布市内では、一年間で約**3,000t**（ジンベイザメ約**150匹分**）以上の食品ロス（まだ食べられるのに捨てられてしまった食べ物）が出ていることを知っていますか？

それらを捨ててしまうことはもったいないだけではなく、処分するためにはたくさんのお金がかかりますし、燃やすことで温暖化の原因となる二酸化炭素も大量に出てしまいます。普段から家のごはんや給食を残さずしっかり食べることが、自分のためだけではなく、ごみを減らすことにもつながります。



12 つくる責任 つかう責任



17 パートナースhipで目標を達成しよう

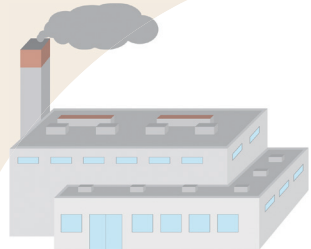


みんなの協力で目標を達成しよう！

ごみを正しく処理することは、地球環境や資源を守り、住みやすい社会を作ることなど、さまざまな目標につながります。この目標を達成するためにはみなさん一人一人の行動が大切です。住民や企業・地域・調布市・学校・その他のいろいろな立場の人たち全員が協力しなければ達成できません。みなさんも、**今、自分ができることを考えてみましょう。**



13 気候変動に具体的な対策を



3Rの実践でごみを減らそう

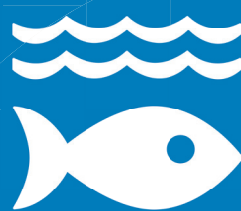
ごみ（特に、プラスチックごみ）を燃やした際に大量に出る二酸化炭素は、地球温暖化を加速させ、異常気象や環境問題を引き起す原因となります。そのため、ごみを減らし、二酸化炭素を少なくすることは、温暖化を防ぐために誰でもできる、とても大きな近道です。

3R（リデュース・リユース・リサイクル）の実践で燃やされてしまうごみを少しでも減らし、未来の地球を守りましょう。

3Rとは？

3Rとは Reduce（おうちのごみを減らす）、Reuse（繰り返し使う）、Recycle（資源を有効活用する）、の3つの頭文字をとった、ごみを減らすためのキーワードです。

14 海の豊かさを守ろう



マイボトル・マイバッグを持ちあるこう

ポイ捨てされたプラスチックは、分解されずに最終的には海に流れつき、海の生き物が食べてしまいます。

2050年までには、海に流れているプラスチックの合計の重さが、海にいる魚を合計した重さを上回ってしまうと言われています。海を守っていくために、ペットボトルではなく水筒を持ち歩くことや、レジ袋を使わずマイバッグを使うなど、暮らしの中にある**身の回りのプラスチックを減らすことを心がけましょう。**

※そのほか、ごみは



にも関係しています！